

# 諸兄先輩方 申し訳いびやう まわんー!



本日のゲストDJ陣も、すべて現在活躍中の57年生まれ。WORLDで頑張るTequila PanicのDJ DOG (左)とBootyのDJ MICCHY (右)は自称(!?)「スゴ腕DJです!」



ごめんなさい、トイレ中を撮っちゃいました。collageのスタッフとして五十七年会を支えたタナカさん。このカット以外にもどこかにタナカさんがいる...ウォーリーならぬ、「タナカを探せ!」

今イベントの花札風ポスターを手がけたのはエースカフェのちょびり先輩、五十六年組のマイコさん。「弟たちのイベントのようで...」とフロアを見つめる目には姉弟愛があった?



イッカイクんの頭にはハイネケンタトゥーシール。「ハイネケン、オルメカ、ツードッグス...キリンさん、ありがとございます!」の意を込めて



五十七年会は、ジレンマのイッカイクン(右)とエースカフェのマサミくん(左)、この二人の出会いからはじまった。結成から半年という短い歴史ながら、協力者の多さに感涙。「四十九年会を超えます!」宣言は、今宵から夢物語ではなくなった?

五十七年会のプリンセス、Lady Penelopeのツバサさん(左)と同会プリンセス、エースカフェのきっぺーくん(右)のツーショット。姫と王子にあるまじきこの食いつぶり。「五十七年会はガッツいきます!」



「若いヤツらを見守っていきますわ。まさに五十七年会の父親的存在。木屋町歴30年以上の荒川隆一さん。こういう御仁の恩恵を、五十七年会は忘れてはいけません」



木屋町のみならず、祇園からの参戦はSEED店長兼DJのYMX(左)、DJ OKAKING(右)で、ともに五十七年会。「五十七年会を音楽の分野から盛り上げるっす!」と気合十分

「55年会ってないからな〜」と嘆くのは先輩格のタカさん。それでも「先輩までイベントにじゃんじゃん呼ぶ。懐深さが五十七年会の良さですわ」とイベントを存分に満喫中



アトランティスの常連、マミさん(左)に連れられたユミさん(右)はともに57年生まれ。「同じ年はキャラ違いのが特徴」という法則を、今宵のイベントで見えたとか



フロア全員にテキーラを配って、五十七年会初の全員による乾杯! あくまでここはスタート地点。さて、この絆はどこまで広がっていく?



乾杯のお酒はテキーラ「オルメカ」。古代メキシコ、オルメカ文明の石像を模したお面とともに、イベントを盛り上げました

中曾根内閣の誕生、「笑っていいとも!」の放送開始。映画「E.T.」の大ヒット...そんな昭和57年に彼らは産声を上げた。早いものである、それから20余年、中曾根康弘が防衛庁長官だったことも、総理になったことも知らないけれど、彼らは立派な大人になり、京都という街において、街のキーマンになっていた。サラリーマン、店長、スタッフ、アルバイト、学生、ニート...一人ひとり送ってきた人生は十人十色である。が、「昭和57年生まれ」は2006年末、結束した。それはあたかも、彼らの大先輩が立ち上げた四十九年会のごとく...

# 弱冠二十四歳ですが

(と、ぶく一部二十三歳)

# 天下取りさせて いただきます。

夢

「五十七年会にカンバイ!!!」 「フイエー!!!」

24歳男女があふれるフロアが狂騒に包まれるなか、誰よりも手こたえを感じたのは会の発起人、木屋町のパー「ジレンマ」のイツカイくん、ご存知京都の怪物カフエ「エースカフェ」のマサミくん。「24歳、社会人であれば2年目のツライ時期、月曜の深夜にこれができてしまふ57年生まれの幸せ(笑)」を満喫しつつ語る。

「木屋町だけじゃないッス。祇園も烏丸も、全部ひっくるめて『京都』を活性化させたいッスー。いいね、懐がデカイ。諸兄先輩方の「木屋町活性化云々」とはひと味違う?

「ホント、先輩を尊敬しています。ただ、同じことをしても仕方ないですからね。この先、五十七年会が何を生み出すかまったくわかりません!……って無責任ですか? (笑)」

時は流れ、世代交代が起こるもの。それは果たして今宵だったのか、まだ先なのか。「僕らはイベントがしたいんじゃないんです。これをきっかけに輪が広がって、その絆が繋がりが続けることを大切に思っているし、願っています。何をするか、何ができるかは、これからです」とマサミくん。そう、彼らはまだスタートを切ったばかりである。

夢を見たって、追いかけて、いいじゃないか。時代はいつもこうやって動いてきたんだから。「今日で絆が深まった」と語る昭和57年組の天下取り、身に覚えのある諸兄先輩方も、しばらくは静観しませんか?

# 何十何何

at collage